

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」教育、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」教育を実践することにより、生徒の自尊感情を高め、社会参加に必要な力を育み、目的を持って豊かな生活を送ることができる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 エンパワメントスクールの教育内容の充実  
P D C A サイクルで組織的に取り組む。  
ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。  
イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。  
※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」の肯定的な意見の割合 70%以上を維持しつつ、2021 年度には 75%とする。(H30 63.4%)、「エンパワメントタイムに関する項目」の肯定的な意見の割合 50%以上を維持しつつ、2021 年度には 60%とする。(H30 55.7%)とする。  
ウ 4つの系列科目の内容の充実  
※ 系列の科目に関する授業アンケートについて、全ての項目において、3.1以上とする。
- 2 3つの力（新たな自分を創造する力、人間関係を大切にする力、社会に貢献する力）を育む。  
(1) 学習活動の充実  
ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。  
※ グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、平成 31 年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を 4 段階中 3.20 以上にする。＜H31 3.20、2020 3.20、2021 3.20＞(H30 年度 3.19) また、授業アンケート「生徒意識 1」及び「生徒意識 2」の平均値 3.0 以上を維持する。(H30 年度 3.08、3.10)  
イ 4つのコース（海洋、情報、福祉保育スポーツ、英語国際）の内容を、より魅力的なものにする。  
ウ 特色ある学校設定の授業を開講する。  
(2) 特別活動の充実  
体育祭、文化祭、地域と連携する山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施する。  
※平成 31 年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後アンケートにおける肯定意見 70%以上を維持する。また、文化祭事後アンケートを 70%以上にする。＜H31 65%、2020 70%、2021 70%＞国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりににおける肯定意見 80%以上を維持する。  
(3) キャリア教育の充実  
ア 個々の生徒の状況に応じた支援を行う「「寄り添う」、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」生徒指導の実践  
※生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を 50%以下にする。(平成 30 年度 47.2% 平成 29 年度 49.3%)  
イ 人権教育の推進  
※生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を 50%にする。(平成 30 年度 52.5% 平成 29 年度 47.2%)  
ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援  
※生徒向け学校教育自己診断における「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う。」の肯定的意見について 50%以上を維持し、2021 年度において 60%以上にする。(平成 30 年度 55.7% 平成 29 年度 56.4%)とする。  
エ 望ましい職業観の育成と進路実現  
※系統的なキャリア教育により、自尊感情を育成し卒業時における進路未決定者を 10 人以下にする。(平成 30 年度卒業生のうち未決定者 12 人)  
オ 国際感覚の育成  
※台湾の高校との交流や国際理解ワークショップ、及びオーストラリアの高校とのテレビ会議など、国際交流事業を定着させる。  
(4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実  
ア 高校生活支援カードの活用促進のため、カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無にかかわらず困り感のある生徒の支援を行う。(高校生活支援カードの提出 100%を維持)  
イ 授業のユニバーサルデザイン化により基礎的環境整備を図る。  
※ 平成 31 年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を 4 段階中 3.20 以上にする。＜H31 3.18、2020 3.20、2021 3.20＞(平成 30 年度 3.17)  
ウ LHR や総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。  
※ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を 50%にする。(平成 30 年度 52.5% 平成 29 年度 47.2%)  
エ 支援教育体制の整備  
(5) 通級指導教室の充実  
ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。
- 3 人材の育成と管理  
ア 教員全体の資質向上のため、外部講師を招聘し授業改善、組織運営を中心に、支援教育、教育相談、人権問題、社会人教育など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。 ※ ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間 10 回実施する。  
イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化を図る。
- 4 地域連携と広報活動  
ア 地域の小中学校への点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。  
イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。※参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が 1 団体以上参加する。  
ウ 学校の取組みを発信する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 | 学校運営協議会からの意見 |
|----------------|--------------|
|                |              |



府立岬高等学校

|                |                                                                                              |                                                                                       |                                                                                           |  |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 3<br>人材の育成と管理  | ア 教員研修の充実<br>イ 働き方改革の推進                                                                      | ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善、組織運営を中心とする研修を行う<br>イ 業務の効率化を図る                                 | ア ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間 10 回実施する（H30 回 H29 17 回）<br>イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化と委員会等の統廃合を図る   |  |
| 4<br>地域連携と広報活動 | ア 地域の小学校への点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する<br>イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する<br>ウ 学校の取組みを発信していく | ア 取組みを継続する<br>イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する<br>ウ 支援教育や特色ある取組みの広報を行う | ア 取組みを継続する<br>イ 参加依頼のある岬町内の地域行事に生徒会や部活動、有志が 1 団体以上参加する<br><br>ウ パンフレットの作成と通級指導教室の成果の発表を行う |  |